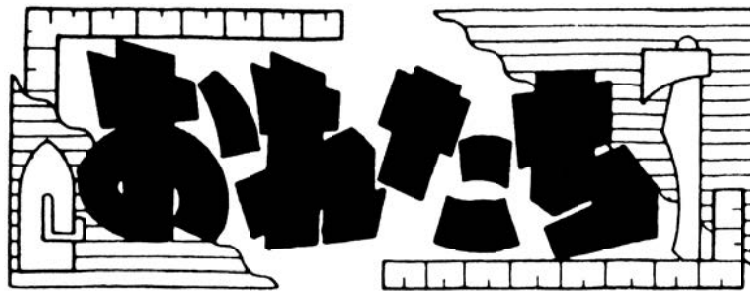


無料法律相談日の案内

9月20日(金)14時~16時

希望者は前日までに予約を

8月当初組合員数=1829人 (-16人)



発行所
東京土建一般労働組合荒川支部
東京都荒川区荒川6-3-1
TEL(3892)9131 FAX(3892)9381
発行者・津田宗久/編集長・小熊賢一
https://www.doken-arakawa.org/

若い世代の仲間が集い、建設業の未来を語り合う 分会活動経験交流集会



役員、後継者世代を中心としたメンバーが参加しました

7月6日・7日に伊東のサンハトヤで分会活動経験交流集会が開催されました。初日は全体会から始まり、その後支部・分会経験報告が行われ、その中で荒川支部の後継者世代の活動紹介動画が流れ、田村高広後継者対策部長が報告を行いました。その後は25グループに分かれて分散会が開かれ、各支部の意見交流を行いました。夜は宴会場で夕食会の後、それぞれの

部屋で支部の垣根を越えた交流が盛んに行われました。2日目は初日の分散会に続き、2日目も同じメンバーで分散会を行ったことで、緊張も解け、より深い意見交流が生まれました。午後は主婦の会、青年部の報告と続き、決意表明の後、団結カンパロで閉会しました。全体の参加者は287人で、支部からは7人が参加しました。

【田村高広後継者対策部長】東尾久1分会」分会活動経験交流集会に参加しました。3年連続3回目の参加でした。今回は津田委員長をはじめ7人の参加でした。初日に7支部の報告会があり、今回は荒川支部の経験報告もありました。荒川支部の動画が流れた後、経験発表をしま

した。かなりの緊張で何回か噛んでしまいました。良い報告ができたかなと思います。分散会では各支部の方々と10名で意見交換をしました。やはりどの支部も青年部や後継者部員不足があるそうです。どうしたら若い人達が活動に出てきてくれるか話し合いをしました。役員にしばりをせ

ず、まずは懇親会やレクリエーションへの参加を呼び掛け、ベテランの方に背中を押してもらい、今の若い人達に合わせた会話をするという心使いや、優しさを大事にするという意見もありました。まずは無理をさせない、楽しんで貰う事を優先させることが必要だと感じました。これからも後継者対策部会として青年部やザ・レディース荒川と力を合わせて協力して楽しい組合活動をして行きたいと思えます。

【大橋正博財政部長】財政部を担当させていただいてます。大橋です。行きは、東京駅から新幹線で熱海まで行き、熱海から伊東までは、ローカル線で移動、その間だいたい1時間30分ほどでしょうか。伊東に到着するとしっかりと晴れており、外に出ればすぐに汗をかくほど暑かったです。伊東からは迎えのバスがあり、サンハトヤまでは5分程度で到着しました。

開会のあいさつは本部役員さんのあいさつと分会活動経験交流集会の目的とテーマ(Passion(熱情・情熱)、と流れていき、その後はいくつかの代表支部による支部・分会経験報告が行われました。荒川支部も選ばれており、以前本部より何度か取材が入った際の動画上映、田村後継者対策部長による報告が行われました。途中にお昼休みや休憩を挟み、夕方にはそれぞれ宿泊部屋25部屋ほどに別れて分散会が開催されました。夜には大宴会場で夕食

組合員を1人にしないなど、各分会・各群では、高齢化による役員不足など問題を抱えています。10分群会議をやるというだけではありませんが、各分会・群で問題を共有し、時には合同で会議やレクリエーションを行う事が、未来に繋がっていくのでは無いかと思えました。その他では、組合活動に参加しやすい雰囲気を作ろう(群会議を含めて組合活動は面倒臭いものという雰囲気根付いてしまっている。若者に優しくしよう)。役員になってもらうには、全力でフォローすることが必要(全力でフォローしなければ新しい役員は出てこない。言葉で伝える)。お酒で人は集まらなくなった(飲み会も必要だが、食事会などその他の魅力的なイベントの開催が必要)。事業所全体で住宅デーに参加しているところもある(地域に根付く事業所自体も強くなる等のお話が非常に参考になりました)。

小平東村山支部は10分群会議の開催(群長さんの家で群会議をやっているところもある中、いくつかの群合同で開催。群長さんを助ける、組合員の意思統一、組合員はお客様では無い、組合は組合員皆で作られている、とても良いところですので、皆様も是非とも行ってみてください。

今年も大役を担う田村後継者対策部長



今年も大役を担う田村後継者対策部長

今年も大役を担う田村後継者対策部長

今年も大役を担う田村後継者対策部長

核兵器の無い世界を目指して 国民平和大行進

【並木義勇さん】荒川分会 1945年8月6日に広島、9日長崎に原子爆弾が投下された。広島、長崎で21万人もの命が一瞬に奪われ、生き残った被爆した人は傷つき、苦しい生活を強いられた。



たくさんの仲間が参加しました

二度と広島、長崎のような悲劇を繰り返すな、核兵器廃絶をと1945年、日本で最初の平和行進は被爆地広島の平和公園から原水爆禁止世界大会が開催された東京に向けて歩きはじめました。2024年の荒川区国民平和行進が7月26日に東京土建(荒川支部)、新日本婦人の会(荒川支部)、荒川区労連、原水爆禁止荒川区協議会の団体計25人が荒川区役所前公園に参集し11時に行進が発表しました。

一人ひとりが声を上げることで世の中を変える道に繋がるのではないのでしょうか。



支部役員が先頭に立って行進しました

全国から2000人以上の仲間が集う 予算要求中央総決起集会

【教育宣伝部発】7月12日、日比谷公園野外大音楽堂で、賃金引き上げや建設

国保の育成強化を求めて予算要求総決起集会が開催されました。雨も降る中、全国の仲間2001人が参加し、支部からは10人(書記含む)が参加しました。

午前中に都庁前に集合し、全都建設労働者対都要求行動が行われ、終了後、日比谷公園大音楽堂に移動し予算要求中央総決起集会



集会の初参加の佐々木書記

が開催されました。冒頭の中西全建総連委員長の挨拶ではこの間全国の仲間を取り組んだ100万人署名で多くの議員から賛同署名を得て、全会一致で「建設労働者の雇用改善・担い手確保・育成に関する請願」が採択され、担い手3法が成立したことが報告されました。また、併せて能登半島地震の復興支援に多くの仲間が携わった事に対する感謝の言葉がありました。

その後は、交渉団代表の決意表明、来賓挨拶、基調報告と進み、提案及び採択がされた後、最後は団結方ンパロウで閉会しました。

これから年末まで続く予算要求行動やハガキ要請行動などはすべての組合員や家族が参加できる大切な運動です。大変だとは思いますが皆さん参加やご協力をお願いいたします。

プロから学ぶ 機関紙づくりのための 写真講座

【薄井章さん】町屋南分会 講座を受け、講師の方

のお話の中の「写真で何を伝えるか、言葉で伝えるのではなく新聞を使って伝える。その際には写真も使って伝えるにはただ撮っただけでは何も伝わらない。取材を通して見る力を養う事も必要です」という言葉が印象に残りました。

会議や集会等で発言者の写真を撮る際には、「人によつてはずっと原稿を読むために下を向いていたり、そこが一番のシャッターチャンスです」と教わりまし

このように写真を撮る際には、機転を利かせたり、相手の行動を読んだりなど工夫が必要だと学びました。熱心に説明していただき、大変勉強になりました。ありがとうございました。

【藤川直樹さん】東尾久1分会 さすが講師がプロの写真家で、なおかつ労働



写真講座の様子

川の方々も、荒友会の方々も、後継者対策部の方々も、参加してください。されば良かったのに」と思いました。

【並木義勇さん】荒川分会 撮影する時の注意点では、薄暗い、光の少ない条件では写真がブレやすい。人物の撮り方では、インタビュ

集合・会議などの撮影での要点では、全体の様子(全景)は必ず撮っておく、室内集会では天井はなるべく入れない、デモは正面から撮る。

これらの共通点は1・2枚撮って終わらせず可能な限り納得いくまで何枚もシャッターを押すなど学びました。

デジタルと紙媒体(新聞・雑誌・チラシ等)のメリット、デメリットは何かとお肉の肉汁が輝いて美味しくなることが出来ることを見られるのに対しデメリットは一方通行の情報で偽ニュースの見極めが難しいと指摘がありました。紙媒体のデメリットは手間がかかり印刷されると修正が難しい。メリットは新聞発行の出所や記者名などはっきりし、発行まで何人ものチェックが入り、届けるまでに人と人との繋がりが感じ

られると言います。他には写真は撮った時から著作権が発生する事、またプライバシーにも気を付ける事は大切ですよと言います。

今回学んだ事を支部機関紙や分会新聞に活かしていきたいと思えます。

【堀井龍一さん】日暮里1分会 普段あまり聞きなれない「メディア」という言葉を、ステイキの焼き加減を例に分かりやすく教えてもらいました。ウエルダ

写真の撮り方については、「もしも撮った写真が明るすぎる、或るいは暗すぎる場合にはオーバーになりすぎなければ多少の調整は全く問題ありません」と教わりました。

また、料理の写真などを撮影する際には、太陽や照明がこちらに向かって照っているところを撮影するとお肉の肉汁が輝いて美味しくなることが出来ること聞き、昔美術の授業で明度や暗度をはっきりさせると立体感が生まれると習った事を思い出しました。

最後に一番大事なことは写真を撮る際には相手の気持ちを考えながら撮ること。「すまない、ありがとう」と顔に出ていることが大切で、心で写真を撮る大切さを学びました。

あんなり良い話が聞けたので、「ザ・レディーズ荒